

広島グリーンアリーナの有効利用に係る意見交換会（第2回）
の 実 施 結 果 に つ い て （ 報 告 ）

スポーツ推進課

1 要旨

6月12日（木）に実施した広島グリーンアリーナの有効利用に係る意見交換会（第2回）での意見等は次のとおりである。

2 事務局から説明した主な内容

項 目	説明内容
専 用 利 用 と 区 分 利 用 の 状 況	○専用利用（スポーツ大会やコンサートなど）の予約が入らずに、若しくはキャンセルにより、区分利用（大アリーナを4つに区分して、1時間単位で利用、日常系のスポーツとして利用されることが多い。）している状況がある。 ○基本的に、平日が区分利用となることが多く、平日は、有効利用の余地があると考えている。
展 示 会 ・ 集 会 で の 利 用 件 数	○令和2年度から令和6年度までの展示会・集会の利用件数（コロナ禍で中止になったイベントを含む。）は、減少傾向にある。 ○特に、土日の展示会・集会での利用件数（コロナ禍で中止になったイベントを含む。）は、令和2年度に11件あったものが令和6年度には1件となっている。 ○土日の利用についても、このような状況を踏まえながら、運用面を工夫していくことができるのではないかと考えている。

3 参加者からの説明

(1) スポーツのニーズ

項 目	説明内容
主 な 実 績 等	○例えば、バレーボールでは、広島グリーンアリーナは4面とれるので、小アリーナ（2面）と合わせると6面になる。コートサイドのスペースも十分に確保できるのは、広島グリーンアリーナだけである。 ○西日本バレーボール大学選手権大会は、毎年、広島グリーンアリーナで開催させていただいているが、約60チームが参加される。1チーム20人程度でチーム編成、関係を合わせて計50人程度と考えると、3,000人くらいの参加がある。
利 用 調 整	○全国大会は早期内定の対象になるが、中国ブロック大会などは早期内定の対象にならないため、1次利用調整で利用申請することになるが、1次利用調整の時点では、年間スケジュールのほとんどの土日が早期内定済みの状態である。
他 県 の 状 況 等	○他県では、インターハイなどで利用する場合、1つの会場でできない場合もある。ただ、そのような場合でも、大会はやらなければいけないので、別の会場、場合によっては隣県の会場も利用しながら開催している。
競 技 団 体 の 状 況	○小学生、中学生、高校生、子供たちのスポーツの全国大会などが行われれば、おそらく、平和公園、原爆ドームなどにも訪問いただき、平和学習もしていただけるのではないかと思います。特に小学生は、ご家族もいっしょに来訪いただける。 ○そのような視点も持ちながら、競技団体には、全国大会を誘致してほしいと伝えている。そういう思いをもっている競技団体もある。

(2) コンサートのニーズ

項 目	説明内容
広島グリーンアリーナの特徴	○舞台の大きさ、天井の高さ、重量制限等の条件を考慮すると、舞台セットをすべて持ち込みでアリーナツアーを開催できるのは、中四国地方では、広島グリーンアリーナのみである。 ○特に、現在の舞台セットは、天井から吊り下げるタイプのものが主流であるが、広島グリーンアリーナの天井は、舞台セットの重量に耐える仕様になっている。
有料興行の制限による機会損失	○年間で、少なくとも、10組、20公演ができていない状況である。 ○ただし、これは、プロモーターからオファーがあって、断った件数であり、実際には、オファーなく諦めているアーティストもいるものと考えられ、もっと多くの潜在ニーズがあると考えられる。 ○20組、40公演ができていないと仮定すると、1組（2日公演）あたり3.05億円の経済効果×20組（10%制限で公演できていないと想定）＝約60億円の逸失となる。
広島マーケットの特徴	○他の地方都市と比べると、県内県外の比率は、県外の参加者が6割くらいと、県外比率が高い。
業界のトレンド	○アーティストの収入もCDからコンサートのビジネスに変わってきている。 ○今後も、この傾向は続いていく。 ○また、芝生管理の関係で年間で回数制限があり、天候などに左右されるスタジアムツアーよりも、アリーナツアーが積極的に展開されるような状況がある。 ○現場を預かる責任者の感覚として、日本では、スタジアムツアーができる（客を集めることができる）アーティストは10組くらい、アリーナツアーができるアーティストは100組を超えるのではないかなと思う。
平日利用	○K-POPアーティスト、STARTO ENTERTAINMENT所属のアーティストは、平日開催でも動員を見込むことができる。それぞれ10組くらいはあるのではないかな。 ○ただし、アリーナツアーは、基本的に平日準備して、土日実施というリズムで全国を回っていくので、広島だけ、平日開催ということにはなかなかかなりにくいと思う。
その他の効果	○ライブでアーティストが来ると、いわゆるキャンペーンとして、来広したアーティストがローカルメディアに出たり、場合によっては、学校訪問するといった効果がある。 10代の子供たちにとって、憧れのアーティストをローカルメディアで見ることができるということはインパクトがあるし、盛り上がる。そういう効果もあると思う。

4 主な意見

参加者	主な意見
渡邊一成さん（福山市立大学都市経営学部教授）	○広島グリーンアリーナは「スポーツ王国・広島」の象徴たる施設であるため、この位置づけは堅持すべきである。 ○短期（当面5年程度）方針と、中長期（5年程度先以降）方針を立てる必要がある。 ○有料興行制限10%は維持し、利用調整スケジュールは、現状のとおり実施すべきである。
福田由美子さん（広島工業大学工学部建築工学科教授）	○キャパシティが足りていない。スポーツ大会の開催だけでも足りていないかもしれないところに、広島ドラゴンフライズの話やコンサートのニーズ増加という話がある。 ○短期的には、広島グリーンアリーナが様々な機能を担っている中で、使われてないところを捻出して、何とか有効利用してやっていくということになるのだろうが、中長期的には、大きい視点で、スポーツ大会やコンサートを広島都市圏としてどう展開していくのかということを経営していく必要があるのではないか。
堂本ひさ美さん（公益財団法人広島県スポーツ協会常務理事）	○広島グリーンアリーナだけでは、キャパシティが足りないもので、他の議論が必要ではないかと思う。 ○広島ドラゴンフライズを県民みんなで応援したいという気持ちはある。そういう気持ちをもっている広島の子供たちが、いざ、自分たちが広島グリーンアリーナを使いたいと思ったときに、広島ドラゴンフライズが押さえているから使えない、そういうことがないように、アリーナの在り方を考えていく必要がある。
大信寿洋さん（広島県高等学校体育連盟理事長）	○スポーツの立場から、いろいろと話をさせてもらったが、コンサートが増えて、子供たちの人気が集まって、子供たちが増えて、子供たちがスポーツをしてくれる、総合的に、子供たちが誇れる広島に向けて、取り組んでいきたい。
大山高志さん（株式会社夢番地執行役員）	○広島グリーンアリーナは、今、中国四国地方の中で、一番の施設だと思う。ここを上手く、コンサートもで、スポーツもで、その他でも、みんな、うまく使えるようになればいいなと思っている。
大窪シゲキさん（広島エフエム株式会社9ジラジDJ）	○私は、10代とのラジオ番組をもう18年ぐらい続けているが、若者たちはライブ会場としてグリーンアリーナに行きたいなとか、新しい会場が広島にできたら行きたいなとか、そういう話もしてくれる。 ○一方、体育祭での使用の話もあったが、暑さ対策や、運営面で、天気心配をしなくていいし、駐車場の整理もする必要もなく先生も助かっているそう。そういうことでも価値がある。この場所で体育祭ができるということは、大好きなアーティストがライブをした場所で自分たちも活動できるという特別な体験になっているように思う。 ○Perfumeと番組で20年来の付き合いになるが、Perfumeも、地元の広島グリーンアリーナでライブをしたくても会場がとれなくて悔やまれてた。地元出身のアーティストが地元の聖地でライブができると良い。

参加者	主な意見
村井由香さん（広島県中小企業家同友会副代表理事）	○スポーツでも、エンターテインメントでも、機会損失があるように思う。 ○ただ、現状、ハイブリッドでやっていくしかないという状況で、決め方の透明性とか、情報共有の仕方というのは意識をして取り組んでいく必要がある。 ○長期的な視点で、この課題にどのように取り組んでいくのかということについては、今、広島に求められているように感じた。
末松辰義さん（広島都心会議事務局長（広島電鉄株式会社執行役員））	○前回、広島グリーンアリーナの利用実態をご説明頂いたが、グリーンアリーナ以外でも開催できるものがあると感じた。 ○スポーツやそれ以外の需要もあるが、広島のにぎわい創出につながる重要な施設であるため、工夫しながら、コンサートを広島に呼べる方法を検討してほしい。 ○特に、収容人数の規模や立地などを含めて、広島グリーンアリーナでしか出来ない興行もあると思うので、有料興日数10%の割合を少し緩和することが考えられないか。 ○広島都心会議としては、ビジョンにも示しているとおり、多目的のアリーナ施設がもう一つくらいあってもいいよねという話は出ている。 ○将来、新アリーナが建設されるのであれば、広島都心全体の賑わい創出や回遊・周遊が図られるよう、既存施設と連携した利活用方策も検討しておく必要があると思う。
西川百合香さん（安田女子大学現代ビジネス学部公共経営学科4年）	○スポーツやコンサートを始め、さまざまなニーズに対して、キャパシティが足りていないと思う。 ○県外からいらっしゃった方々の旅行などによる経済効果もあると思うので、そういった機会が減る原因になってしまっているところをもったいないと思った。 ○別の大きな会場があったらいいのではないかととも思う。
山下若菜さん（広島工業大学工学部環境土木工学科3年次）	（別途、意見聴取予定）

※ 渡邊一成さん（福山市立大学都市経営学部教授）、末松辰義さん（広島都心会議事務局長（広島電鉄株式会社執行役員））は、欠席予定であったため、事前に、意見を聴取。

※ 山下若菜さん（広島工業大学工学部環境土木工学科3年次）は、急遽、当日欠席のため、後日、意見を聴取予定。

5 今後のスケジュール（予定）

7月	広島県議会総務委員会説明（方針（案））
7月下旬	パブリックコメントの実施（～8月下旬）
9月	広島県議会総務委員会説明（方針）